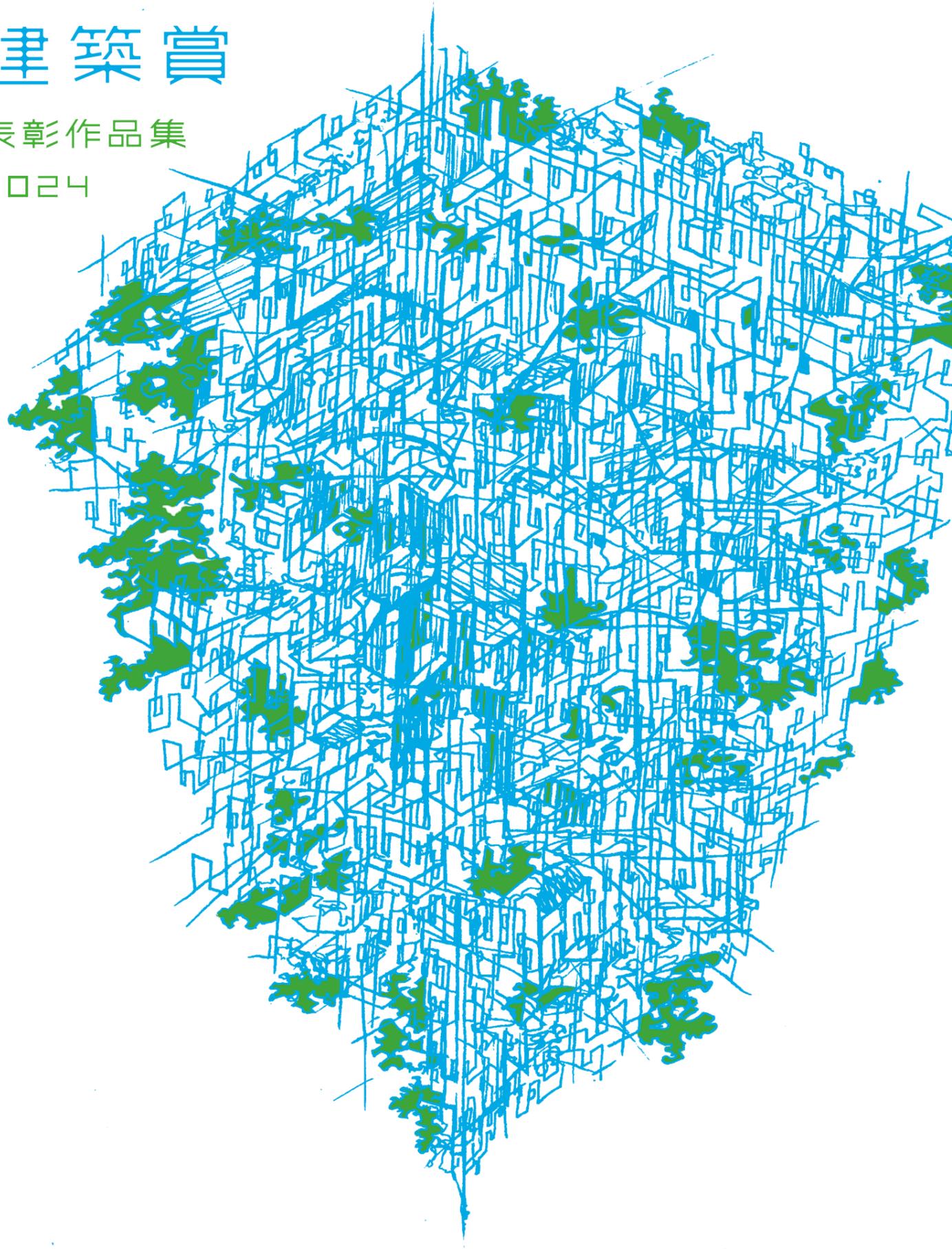


第32回

愛知まちなみ 建築賞

表彰作品集
2024



良好なまちづくりを進めていくためには、建築物及びまちなみが地域環境の形成に積極的に関わり、一定の社会的役割を果たしていくことが重要であるという認識の下、募集条件に適合しているもののうち、良好なまちなみ景観の形成や潤いのあるまちづくりに寄与する等、良好な地域環境の形成に貢献していると認められる建築物又はまちなみで、次の基準のいずれかに適合し、かつ社会的貢献度の高いものを選考する。

選考基準

1 地域における新しい建築文化の創造に寄与しているもの。

(以下例示)

- 新しいまちなみの形成を先導し、モデルとなるもの。
- デザインに優れ、地域環境の形成又は新しい地域環境の創造に寄与しているもの。
- 周囲への配慮がなされ、地域の魅力を高めているもの。

2 地域のまちなみに調和し、魅力的な景観の形成に寄与しているもの。

(以下例示)

- 地場産品を活用する等、地域の風土を生かし、地域文化の継承に寄与しているもの。
- まちなみに調和し、地域の特色ある景観を創造しているもの。
- 建築協定等の住民の主体的な活動や総合的な計画等により、まちなみ景観が形成されているもの。

3 魅力と潤いのある空間の創造に寄与しているもの。

(以下例示)

- 緑化、せせらぎ等の、地域に魅力と潤いを与える空間を創出しているもの。
- 通り抜け空間や開放ギャラリー等の、地域コミュニティの形成に寄与しているもの。
- 地区計画等の詳細な整備計画や住民活動等により、良好な地域整備が図られているもの。

4 その他、本賞の趣旨に適合し、地域に貢献しているもの。

選考経過

応募対象	愛知県内で、2019年4月1日から2024年8月20日までに建築又は改修等された建築物やまちなみで、選考基準のいずれかに該当するもの。
応募期間	2024年7月1日から2024年8月20日まで
応募総数	48作品
第1回選考委員会	2024年9月2日 一次選考を行い、19作品を二次選考対象とした
第2回選考委員会	2024年11月12日 二次選考を行い、8作品を決定した
表彰式	2025年1月28日

選考委員 (順不同／敬称略／★は委員長)

谷田 真	名城大学 准教授
★ 太幡 英 亮	名古屋市立大学 教授
夏目 欣 昇	名古屋工業大学 准教授
船橋 仁 奈	大同大学 准教授
溝口 周 子	名古屋造形大学 教授
向口 武 志	名古屋市立大学 教授
濱田 修	公益社団法人愛知建築士会 会長
安藤 春 久	公益社団法人愛知県建築士事務所協会 会長
野々川 光 昭	公益社団法人日本建築家協会東海支部愛知地域会 地域会長
成田 清 康	愛知県 建築局長
九鬼 令 和	愛知県 都市・交通局長

主 催	愛知県
後 援	愛知県市長会 愛知県町村会 愛知県商工会議所連合会 中部経済同友会 愛知県都市計画協会 中部デザイン協会
協 賛	(公社)愛知建築士会 (公社)愛知県建築士事務所協会 (公社)日本建築家協会東海支部愛知地域会 (一社)愛知県建設業協会 (一財)東海建築文化センター 愛知県建築技術研究会

愛知まちなみ建築賞について



愛知県知事

大村 秀章

Hideaki Ohmura

「愛知まちなみ建築賞」は、良好なまちなみ景観の形成や潤いのあるまちづくりに寄与するなど、良好な地域環境の形成に貢献していると認められる「建築物」又は「まちなみ」を表彰することを通じて、「建築物」及び「まちなみ」のまちづくりに果たす意義や役割を啓発し、魅力と潤いのある地域環境の形成を図ることを目的として、1993年度に創設しました。

第32回を迎える今年度は昨年度並みとなる48作品の応募をいただきました。これらの作品の中から、建築、都市計画、デザインの専門家、行政で構成する選考委員会において厳正かつ公平な審査を行っていただき、最終的に8作品が受賞する運びとなりました。そのうち1作品が「愛知まちなみ建築賞大賞」に選出され、1作品を「特別賞」としました。

今回の受賞作品は「地域住民や学生の交流の場となる丘状の緑豊かな広場が設けられた大学」「水田や工場のあるまちなみに溶けこむ、大きな屋根のある事務所」「屋内型公開空地やストリートファニチャーなど、多様な居場所が設けられた事務所」「遺跡や古墳が数多く残る地域に建つ、高床式倉庫を連想させる住宅」「納屋などとして使用できる軒下空間により、周辺との距離の調整が図られた住宅」「地域住民が自由に使うことのできる

緑地空間が設けられた物流施設」「歴史ある周辺のまちなみに配慮されたエントランスやテラスが設けられた事務所」「人々が集い活動する場として、市民が主体となりデザインされた公共空間」となっており、いずれも個性豊かで、まちの魅力アップに貢献している作品ばかりでした。これらの作品がこれからも多くの人々に愛され、また地域の魅力ある景観づくりに寄与していくことを強く願っています。

最後になりますが、広くご関心を寄せていただいた県民の皆様をはじめ、熱心に審査していただいた選考委員の皆様、温かいご支援をいただきました後援・協賛団体の方々へ深く感謝申し上げます。これからも、魅力的な景観の形成を促進し、愛着と誇りが持てる豊かな県土の形成と、魅力ある地域づくりに取り組んでまいりますので、引き続きご理解とご支援をお願い申し上げます。

総評

— 昨年の総評で書いた「コール・アンド・レスポンス」を通じて、都市空間の中では点にすぎない建築が長期的に周囲のまちなみに影響を与えてきた受賞事例を、昨年の総評で紹介した。本賞は、建築とまちなみの双方から評価する点が特徴であり、建築のクオリティだけでは受賞に至らない難しさがあるとともに、小さな取り組みでも公共的・社会的な意義が認められれば受賞に至る可能性がある。

今年も、規模・立地・用途・設計者ともに様々な作品が受賞したが、大規模建築が公共空間の創出にいかに関与するかという側面でも、積極的な提案を行った3つの注目作があった。再開発の際に総合設計制度を用いてつくられる公開空地が、必ずしも市民に使いやすい場となっていなかった点は指摘されることが多いが、その点でもモデル事例と言える。一つめは、大賞となった「愛知学院大学末盛キャンパス歯学部臨床教育研究棟」である。覚王山の高低差のある地形を段状の公開空地として緑化し、ファニチャーなどを作り込んで周辺住民と大学生の憩いの場を創出するとともに、周囲の道路形状に合わせて斜めに上がるスロープが横断することで、地域の方々の生活動線を空地に引き込んでいく。二つ目は「第2名古屋三交ビル」で、名古屋駅近くの中高層建築が立ち並ぶ一角に、広く天井が高くかつ木質化された屋内型公開空地を作り出した事例である。都心の憩いの場としては涼しい屋内も有効であり、夜まで誰でも利用できるパブリックスペースとして今後も様々な活用が期待できる。三つ目は「ロジポート名古屋」で、中村区の住宅地において、一辺400mほどの広大な敷地に立つ物流倉庫であるが、敷地周囲に滞在できる緑地を確保、歴史を踏まえて線路や駅をモチーフとしたポケットパークを配置することで、周囲の住宅地にとっては近隣の小公園としての役割を担う好事例である。いずれも、地域貢献度の高いデザインとして、今後の再開発

の底上げに寄与するものであろう。

また、ワークスペースと地域環境の新しい関係構築が読み取れた2点にも注目した。一つは歴史的街並みが残る四間道からほど近いオフィス「FUJIPOLYビル」で、周囲のコンテキストに合わせた縦格子と背後のテラスが作る中間領域が、ワーカーと街ゆく人に緩やかな接続をもたらす、日本的な中規模オフィスの形態として魅力がある。もう一つは農地と工場・倉庫が入り混じる郊外の「大西熱学小牧事業所」で、軽快な大屋根の下に開放的な広場やエントランス・緑地が配され、気持ちの良いワークスペースが作られている。

上記のいずれも、それぞれの立地における快適なライフスタイルやワークスタイルが新たに生み出される気配があり、新しいコミュニティのイメージが想起される事が受賞に繋がったものと考えられる。

最後に、応募と審査の過程を紹介する。今年度は昨年より少し増えて計48点の応募があった。各審査委員の投票結果をもとにした議論により、一次通過19作品が選出された。追加資料と動画を用いて二次審査が行われ、議論を経た投票により下位と差がついた上位6作品をまず決定した。その他作品を対象に追加投票を行い、同点となった2作品を選出。以上8作品の受賞が決定した。また今年度は、二次審査で満票を得た作品を大賞に選定した。大賞は、私が審査委員に加わった2017年度からの8年間で2作品目である。審査委員として4年間、委員長として4年間を務め、その間およそ500作品の審査にあたり、一次通過作品の大半は現地視察をして、県内の多くの街と建築から学ぶことができた。まず応募者である施主・設計者・施工者による地域環境向上への取り組みに敬意を表すとともに、全ての審査員と愛知県担当課の各位、後援や協賛を頂いた団体の方々に感謝申し上げます。



名古屋国立大学 教授

太幡 英亮

Eisuke Tabata

受賞作品

- 大賞 01 愛知学院大学 末盛キャンパス歯学部臨床教育研究棟 [名古屋市千種区]
- 02 大西熱学小牧事業所 [西春日井郡豊山町大字豊場]
- 03 第2名古屋三交ビル [名古屋市千種区]
- 04 宮西の遺跡 [安城市桜井町]
- 05 雲谷町の家 [豊橋市雲谷町]
- 06 ロジポート名古屋 [名古屋市中村区]
- 07 FUJIPOLYビル [名古屋市中村区]
- 特別賞 08 カリマチ広場 [刈谷市大手町]



練り込み技法による記念銘板
作/陶芸家 水野敦雄

あいちがくいんだいがく すえもりきゃんぱす しがくぶりんしょうきょういくけんきゅうどう



建築主	学校法人愛知学院
設計者	株式会社久米設計中部支社
施工者	株式会社熊谷組名古屋支店
概要	主要用途 大学
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造 一部 鉄骨造
階数	地下1階・地上6階
敷地面積	3,657.61㎡
建築面積	1,342.43㎡
延床面積	8,898.74㎡

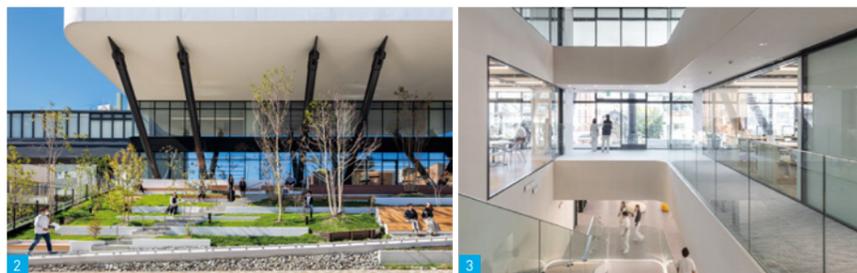
土地の起伏を活かした広場が、まちに大きく開く第一印象は、確かにまちなみに潤いを与えていることを明快に感じさせ、審査員から満票を得るといった共感へとつながった。この作品には、幹線道路が通る街区の、さらにその内側の生活道路に囲まれた敷地において、既存校舎の建て替え事業が展開されている点に特徴があり、その立地特性の活かす方に示唆があると感じている。

敷地から離れた幹線道路からは、ふぞろいに建ち並ぶ既存建物越しに、このエリアの歴史に由来する、丸みを帯びたフォルムと格子窓による上部構造が垣間見え、まちなみに奥行きとアクセントを与えている。一方、生活道路

に接する広場には、通勤・通学時のショートカットになる通路と、学生や地域住民の営みが交錯するベンチが配置され、まちなみに流れと溜まりが生み出されている。「周辺環境との調和」「公開空地の創出」という至ってシンプルな操作にも関わらず、この作品によって、まちの遠景と近景が違和感なく統合され、建物内外をつなぐアクティビティが創出されている計画は秀逸である。

大きな気積をもつ「まちの縁側」空間が目的地の一つとなり、歩きたくなるエリアが拡大することにも期待したい。

● 谷田真 Makoto Tanida



1,2,3 photo/株式会社ロココプロデュース 林 広明 (2024)

おおにしねつがくこまきじぎょうしょ



大西熱学小牧事業所は、工場・倉庫等と田畑などが入り混じった地域に立地している。この建物の周辺には比較的開放感が無く、閉鎖的で無表情な建物も多く、この中で透明ガラスを積極的に取り入れ、屋根の一部にもガラスを採用した大屋根を設置して、建物自体に透明感や開放感を持たせた建物にしている。

また、アプローチ上部に設置された大屋根は、建物へのアプローチの他、作業スペースとしても考えられているが、この建物をより開放感を感じさせる要素となっている。特に、鉄骨の特性でもある部材のたわみを生かした柔らかな懸垂曲線は、大屋根の威圧感を軽減さ

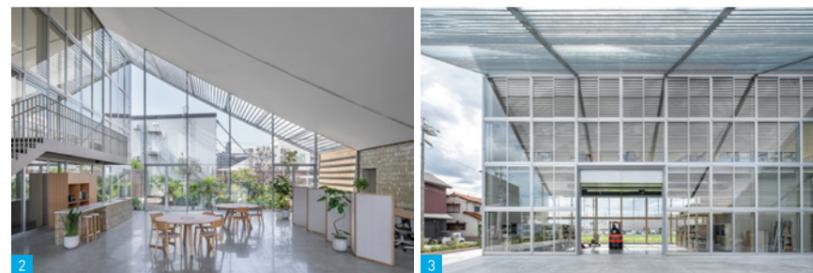
せるものとなっていて、さらに、ガラスで構成されたこの大屋根にルーバーを設置する事により室内への日照調整も行っている。

また、西側のグリーンカーテンについても前面の水田との調和も意識しながら室内への環境も配慮されている。

この建物は、透明感や開放感を持たせた事とグリーンカーテンなど周辺の環境にも配慮されている点を含め、まちなみ建築賞にふさわしい建築として高く評価された。

● 安藤春久 Haruhisa Ando

建築主	株式会社大西熱学中部支店
設計者	株式会社オーブラスエイチ
施工者	株式会社近藤組
概要	主要用途 事務所
構造	鉄骨造
階数	地上2階
敷地面積	1,560.97㎡
建築面積	654.84㎡
延床面積	998.71㎡



1,2,3 photo/ToLoLo studio (2023)



第2名古屋三交ビル

だいなごやさんこうびる

名古屋市中村区



建築主 三交不動産株式会社
 設計者 竹中工務店
 施工者 竹中工務店
 概要 主要用途 事務所
 構造 鉄骨造
 階数 地下1階・地上14階
 敷地面積 2,744.85㎡
 建築面積 1,626.98㎡
 延床面積 21,001.73㎡

リニア開業に向けて開発が進む名古屋駅周辺エリアに建つ、名古屋市の「Nagoyaまちなかオープンスペース制度」第1号建物である。外部の公開空地は多いが、この建築は内部にもオープンスペースの滞在空間を持つ。審査において外部と内部空間の繋がりや豊かさの他、地域の人達に利用されていることが、魅力と潤いのある空間の創造に寄与しているとして高く評価された。三方向の道路沿いは歩行空間とともに街路樹やベンチが設けられ、内部のオープンスペースとは高さ10.5mのガラスならびに気候の良い時期に多くの扉を開放して繋がる。内部のオープンスペースは、オフィスとレストランのエンタランスを

兼ね人が往来し、ベンチやカウンターがある多様な場所から自分の居場所を見つけ滞在できる。壁と天井に施された木質による造形は、外部から内部に抱かれるようにいざない、空間の広がりも相まって屋外を感じさせる中間領域として心地よい。朝から夜遅くまで開放されたこの場所は、地域のオアシスになるとともに行燈として街の安全性を高めている。新旧建物が混在する都心部のなか、この建築が示した地域の人達を受け入れる都市空間が周辺に広がり繋がる景観を想像しなくなる。

●野々川光昭 Mitsuki Nonogawa



1,2 photo/株式会社toha (2024) 3 photo/株式会社エスエス (2024)

宮西の遺跡

みやにしのいせき

安城市桜井町



安城市桜井町は数多くの遺跡や古墳が点在する場所として知られている。本作品の周辺においても二子古墳や堀内貝塚といった縄文・弥生時代の名残が残っており歴史を感じさせる。

建物は木造2階建て。茶色を基調とした屋根根、木材で仕上げられた2階の外壁、色調が押さえられた1階の外壁などが弥生時代の高床式倉庫を連想させる。敷地内では随所に地産材・自然素材が使われており、周辺によく馴染んでいる。本作品が桜井のまちなみに調和しているといえる。

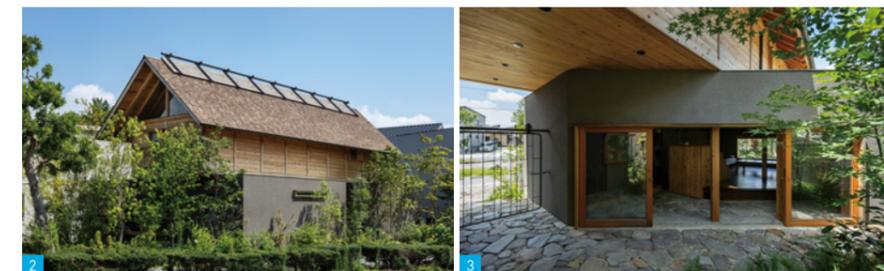
敷地は交通量の多い道路沿いにあり高低差は無い。前面道路と敷地の境界に塀など

●九鬼令和 Yoshikazu Kuki

は無く、外から建物全体が見渡せる。それによって、建物の配置や植栽によりプライバシーも確保されている。周辺住民が緑を享受することもでき、魅力的な景観の形成に寄与している作品であると評価した。

道行く人が桜井の歴史を感じ、地域のアイデンティティが共有されて広がっていく。そこに新たなまちなみがつくりだされていく。本作品がその契機になることを期待したい。

建築主 古味 孝浩
 設計者 岩間建築設計事務所 岩間 昭憲
 施工者 株式会社大正屋
 概要 主要用途 一戸建ての住宅
 構造 木造
 階数 地上2階
 敷地面積 316.63㎡
 建築面積 83.90㎡
 延床面積 108.95㎡



1,2,3 photo/ 笹の倉舎-笹倉洋平 (2023)



雲谷町の家

うのやちようのいえ

豊橋市雲谷町



建築主 近田 祐司
 設計者 吉田夏雄建築設計事務所
 施工者 丸中建設株式会社
 概要 主要用途 専用住宅
 構造 木造
 階数 地上2階
 敷地面積 563.64㎡
 建築面積 123.24㎡
 延床面積 107.65㎡

集落には、地域住民が互いに支え合いながら生活するための知恵や機能があり、一定の秩序が存在する。集落にあらわれている秩序は、そこにあらかじめ備わっていたわけではなく、人々が長い時間をかけて構築してきたものである。ゆえに、共同体意識が強ければ強いほど、新たな参入者は近隣との関係構築に心を傾けねばならない。

雲谷町の家は、座談山の麓にある小さな集落に移り住んだ家族のための住宅である。農村集落に見られる納屋を軒下空間によって再定義し、人がそこを使いこなしていくことで、家族と地域社会との境界の在り方を徐々に更新していこうとする試みである。その場には、

他者に無関心であることが難しい地域社会での「フェメナルな建築の開き方」が示されており、その開き方こそが農村風景に対する新たな解釈を生む。

本計画には、床面積と同等の面積を有する軒下空間があり、出入口以外に掃き出し窓はなく、開口部の内側には間柱が表のまま残っている。そこには住宅や納屋の機能を越えた人のふるまいを生み出す構法の詩学を読みとることができ、農村集落におけるまちなみの秩序を引き継ぎながらも、新たな暮らしの兆しを感じさせる建築として高く評価された。

●船橋 仁奈 Nina Funahashi



1,2,3 photo/新建築社 (2023)



3

05

ロジポート名古屋

ろじぽーとなごや

名古屋市中村区



本建築は、閉鎖的になりがちな巨大な産業用地の周辺を、緑豊かなウォークアブルな空間に改める試みに成功している。敷地の外周に延々と続く物流施設の外周壁をセットバックさせ、そこを緑地や歩道を整備したのである。敷地は戦前に市街地の外に新設された工場の跡地であり、現在のその周辺は戦後の市街化により工場が混じる低層住宅地となっている。そうした地域にあっても、大規模な物流施設は建屋の巨大さとトラックの出入りから、地域の迷惑施設になりがちであるのだが、本建築が設ける隣地外周に沿った緑地帯は周辺住宅地との間の視覚的、動線的な緩衝地として機能している。特に広めに

セットバックした西側の環境が好ましい。近年、海外移転した産業の国内回帰が進みつつある。市街地に古くから点在する産業用地の再編も進むだろう。産業用地はその性格上、自閉的にならざるを得ず、施設は壁で囲わざるを得ない。だからこそ、本建築が示した試みは産業用地再生における先駆的な取り組みとして高く評価することができる。

●向口 武志 Takeshi Mukaiguchi

建築主 名古屋プロパティ特定目的会社
 設計者 清水建設名古屋支店一級建築士事務所 株式会社フィールドフォーデザインオフィス
 施工者 清水建設株式会社名古屋支店
 概要 主要用途 倉庫業を営む倉庫(貸倉庫)
 構造 鉄骨造
 一部 鉄筋コンクリート造
 階数 地上4階
 敷地面積 157,042.27㎡
 建築面積 91,897.67㎡
 延床面積 354,743.95㎡



1,2 photo/後藤 晃人 (2023)



3 photo/株式会社エスエス名古屋支店 (2023)

06

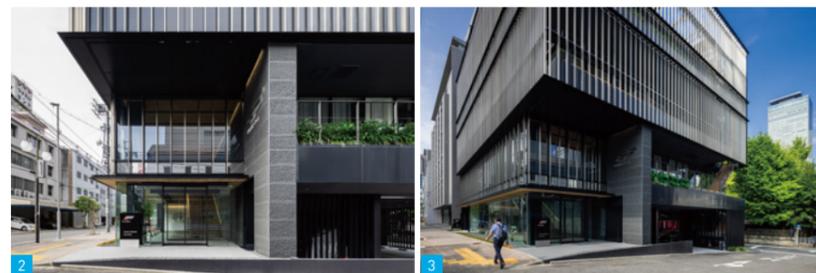


建築主 富士高分子工業株式会社
設計者 大成建設株式会社中部支店
 一級建築士事務所
施工者 大成建設株式会社中部支店
概要 主要用途 事務所
 構造 鉄骨造
 階数 地上4階
 敷地面積 621.37㎡
 建築面積 499.39㎡
 延床面積 1,768.09㎡

この建物は錦橋の西詰を北へ上がったエリアにある。四間道町並み保存地区の南方、名古屋駅の東方にあたる。近世から近代前期にかけて、物流中継により繁栄した地であり、また戦時中の空襲被害から免れたため、名古屋都市部では珍しく下町風情が残る。都市の形成過程からみて、この場所は縁/狭間である。現況、周辺の建物は大小様々であり、連続窓・バルコニーの水平性がまちなみのデザイン軸となっている。その中、この建物はその身にルーバーを羽織ったような出立ちで在る。一見、特段珍しくないと感じるが、そこに肝があると読み解いた。東が表、西が裏、半階弱の高低差を活かして立ちを抑えた1階は、エントラン

スは路地、他は軒内に見立てられる。2階は見通しのよいカーテンウォール、3階4階の縦格子は、日射遮蔽/室内気候の調節手段としてよりも、曖昧な間を孕んだ結界をつくる役割が大きいと感じられ、その間隔は垂木のまばら割りに親しくみえる。伝統的な寸法に従う部位/部材の割付は歩行者の目線で心地のよい構えの源となっている。かつての堀川沿いの蔵・倉庫、四間道沿いの総格子町屋、どちらの様子も想起させる建築であり、周囲との類似を仄かに匂わせる緻密な意匠の妙が光る。近世・近代・現代の鼎座により、まちなみに創造的調和をもたらす実践と評価できる。

●夏目 欣昇 Yoshinori Natsume



1,2,3 photo/株式会社エスエス名古屋支店 彦坂 武徳 (2024)

特別賞 カリマチ広場

かりまちひろば



二つの大きなボックスと八つの小さなボックスで構成された造形は一見シンプルにも思えるが、複数のボックスは人々の絶妙な距離感をもった平面計画となっている。大きなボックスは出店用に活用し、小さなボックスは高さに変化を重ねながらテーブルや椅子などの複数の用途に汎用でき、お年寄りから若者、また小さな子どもには遊具として利用できるから楽しい雰囲気が漂う。複数のボックスは様々な高さで構成されリズムを持ち賑やかなファサードを持つ。もしかすると賑やかさという大きなソリッドを分離、分割し小さなソリッドに配置させることで、賑やかさを増幅させ人々の心を躍動、誘発するダイアグラムだったのかと想像するのはやや早計か。

行政、学生を含めた大学の研究室、建築家、そして市民を含めた多くの人々と街並みとは何か議論を経て、想い巡らせ創り上げたこの建築は既に取り壊されてしまい今は存在していないが、短い期間ではあったが地域の人々に愛されたに違いない。確かに存在していたという証として特別賞を送りたいと思う。

●濱田 修 Osamu Hamada

建築主 刈谷市
設計者 1-1 Architects
 名城大学佐藤布武研究室
施工者 平田建築
概要 主要用途 商店・公共空間
 構造 木造
 階数 地上1階
 敷地面積 6,300㎡
 建築面積 8.28㎡
 延床面積 8.28㎡



1,2 photo/1-1 Architects (2023)

3 photo/井野 孔輔 (2023)

